

# 令和6年能登半島地震への災害対策委員会対応報告

## 1. 情報提供活動

- (1) 迅速な啓発活動；マスメディアとの共同  
発災24時間以内に放送、デジタルニュース等でVTE予防の啓発開始
- (2) 他学会との共同声明発出  
日本血管外科学会、日本脈管学会、日本血栓止血学会、肺塞栓症研究会、日本循環器学会
- (3) 被災者への啓発文書の各言語版作成  
英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語
- (4) 各種資料の被災地への配布  
エコノミークラス症候群チェックリスト（熊本県健康づくり推進課提供）、弾性ストッキングの着用法（弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター養成委員会提供）、車中避難パンフレット（新潟県防災局防災企画課提供）

## 2. VTE 予防活動

- (1) 予防用弾性ストッキング 約34000足
  - ① 分散備蓄から被災地集約へ 10987足
    - ・1月3日～各赤十字病院備蓄分の移動
    - ・各病院備蓄分を派遣DMATが搬送
    - ・1月9日～残りの備蓄分を送付開始
  - ② 企業からのストッキング寄付 6567足
    - ・各企業とのサイズ調整、および配送手順の統一
    - ・現地代表者、組織への情報提供
  - ③ 内閣府からのプッシュ型支援 16346足
    - ・現場のニーズと医療ストッキング企業との調整は静脈学会を通して行うこととなった。
  - ④ その他  
※現地で使用されたストッキング概算・・・2月3日時点で約25000足
- (2) 現地医療機関との連携
  - ・金沢大学、公立穴水総合病院、金沢医科大学氷見市民病院、恵寿総合病院（七尾市）
  - ・1月3日Web会議開催
- (3) VTE 予防検診
  - ・金沢医科大学氷見市民病院、公立穴水総合病院、災害対策委員+応援医師、恵寿総合病院、金沢大学(JMAT 枠)、DMATらの協力で穴水町、輪島市などで実施
- (4) VTE 予防活動スキームの構築（熊本モデルを適用）
- (5) 他組織との連携
  - ・弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター養成委員会、日本静脈学会広報委員会、医療ストッキング企業各社、靴下協会、九州災害情報（報道）研究会、日本臨床衛生検査技師会、JRAT石川、日本薬剤師会、日本超音波医学会

## 3. 寄付募集活動

2024年2月6日現在実績は下記の通り

- (1) 一般寄付；52件（内訳；日本静脈学会、および日本血管外科学会会員47名、非学会員2名、大学2件、公的病院1件）
- (2) 企業寄付；2件